

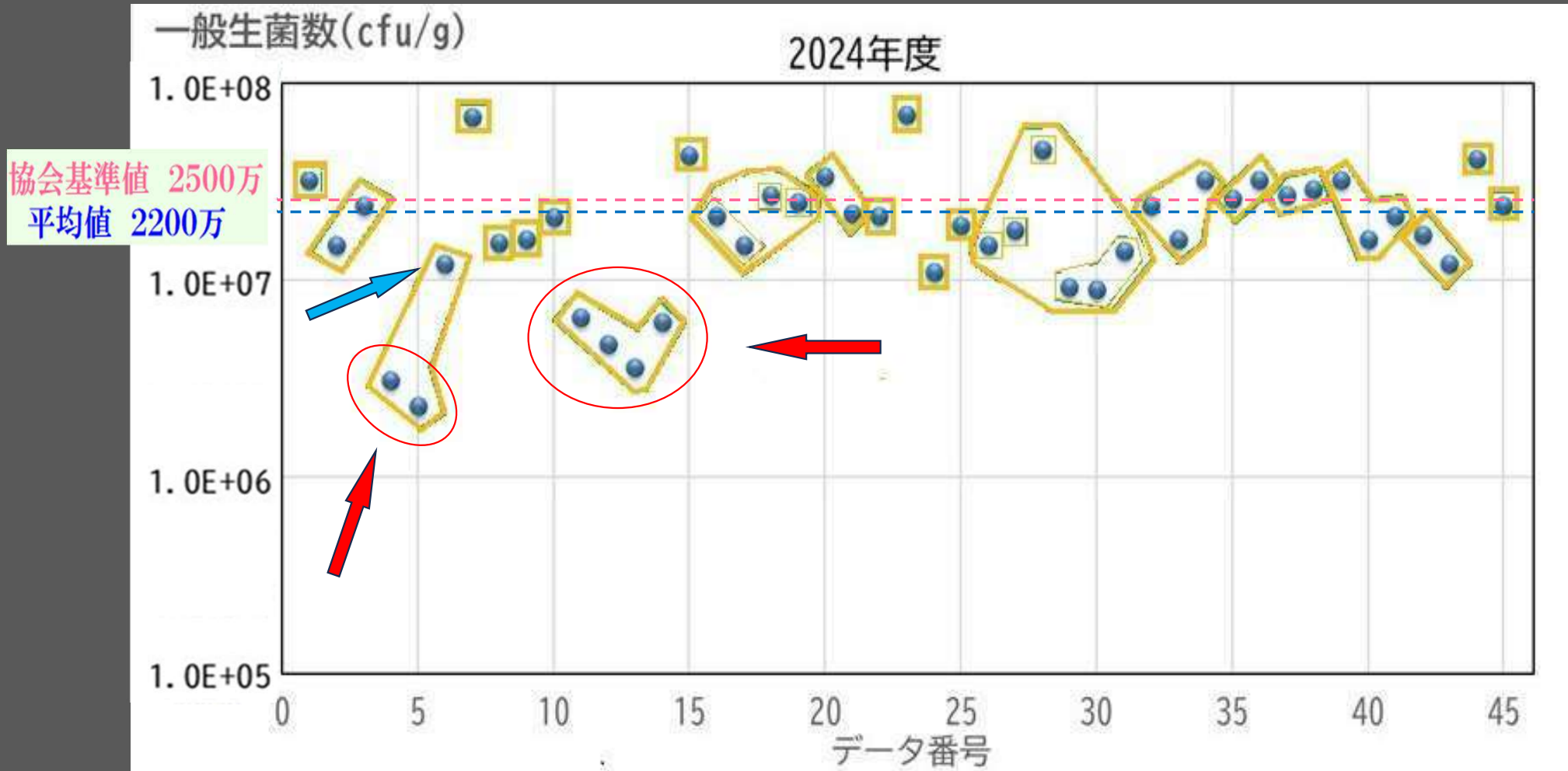
細菌検査の信頼性を得るために

細菌検査の実務と今回の結果から、、、

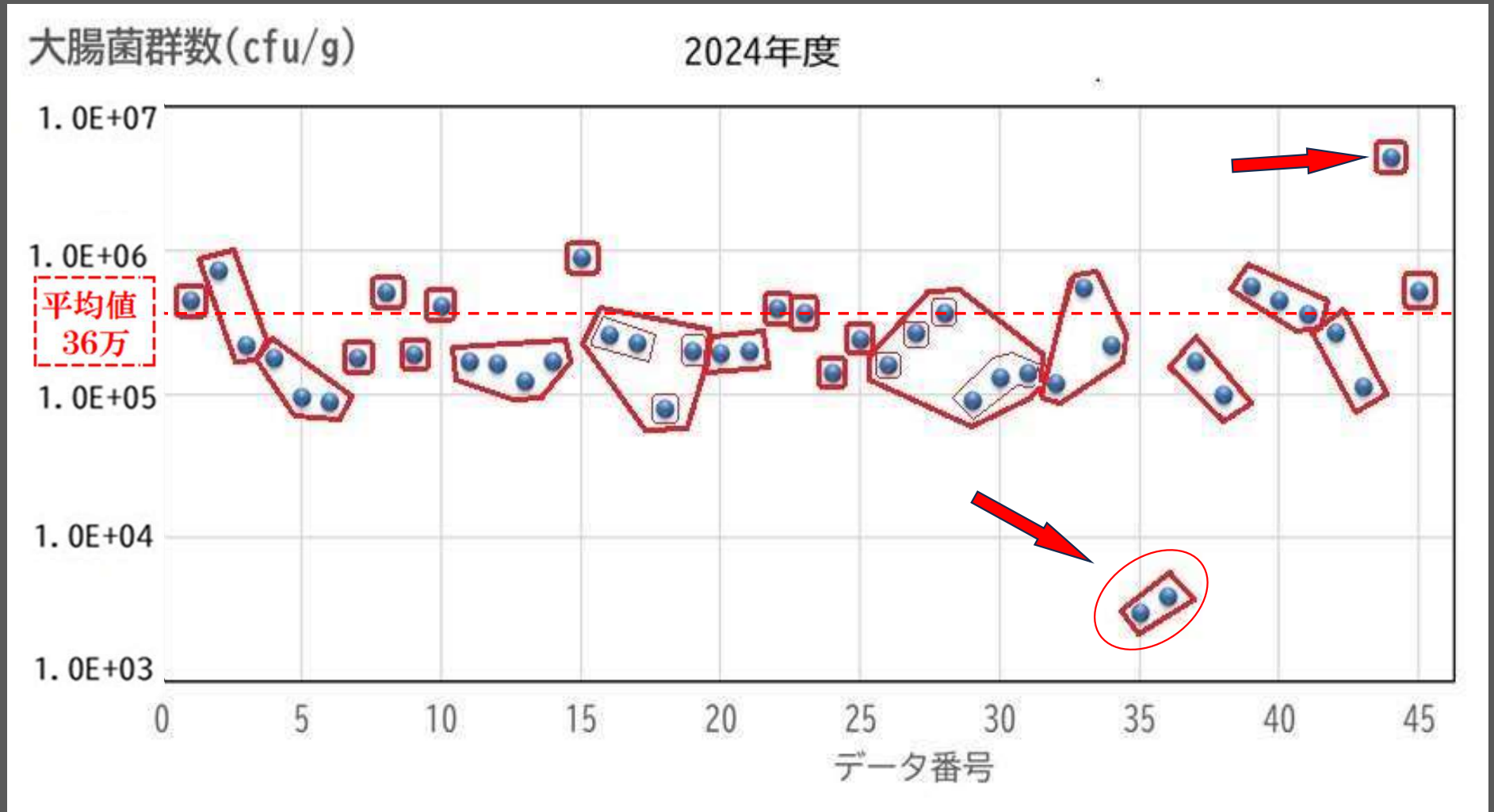
WEB参加の皆さんは、チャット機能も活用してご参加ください



一般生菌数の散布図から



大腸菌群数の散布図から



報告データからの注意点

- ① 有効数字と計算方法のルール順守
30～300又は25～250、片方が外れても計算等
- ② 希釈率とコロニー数が大きくズレている
前後の希釈シャーレも確認する習慣を持つ
- ③ 計算や記録、記載の間違い
間違いにくい仕組みを作っておく
- ④ 細菌検査の報告値は、上位2桁を守る

報告データからの注意点

⑤ 同一事業所の全員の一般生菌数だけが低い

⑥ 決められた培養条件を守る

特に培養時間は菌数に影響する大きな要因です

⑦ サンプル量も規定量を意識する

少ないサンプル量は結果がバラつき易い

多い方がデータの安定性を得られるが、日常

検査と精度が一致するかの考慮が必要

報告データからの注意点

- ⑧ シャーレや培地の枚数に注意
目的により複数回検査も考慮する
- ⑨ 大腸菌の報告が増加
判定方法も調査検討
- ⑩ 一般生菌数か大腸菌群数のどちらかが、
平均値から離れている